

WEEK

END

宇宙にさまよった映画

鉄屑からみつかった映画

「ウイークエンド」

監督・脚本ジャン＝リュック・ゴダール、撮影ラウル・クタル

音楽アントワヌ・デュアメル[サントラCD＝ユニバーサル・ミュージック]

ミレーユ・ダルク、ジャン・ヤヌ、ジャン＝ピエール・レオー、アンヌ・ヴィアゼムスキー

TROUVÉ A LA FERRAILLE... UN FILM ÉGARÉ DANS LE COSMOS... U

フランス映画社配給<パウ・シリーズ作品>、共同提供シネフィル・イマジカ 協賛 TRANS CONTINENTS ©GAUMONT 2002

UN FILM DE

JEAN

LUCE

GODARD





for ever godard

ウィークエンド WEEK-END

21世紀の今、ますます新鮮、ますます面白い傑作!

1960年代後半のゴダールは、65年に「アルファヴィル」と「気狂いピエロ」の2作を発表し、66年に「男性・女性」を発表しつつ「メイド・イン・USA」と「彼女について私が知っている二、三の事柄」を同時期の撮影で完成し、67年、「中国女」と「ウィークエンド」をほとんど同時に発表する。ゴダールの長編劇映画第15作「ウィークエンド」は、そうした超人的な疾走の頂点で創造パワーが噴出した傑作で、やがて起きる68年のフランス五月革命への予感をほらみつつ、<宇宙に彷徨った映画>として、黙示録のように、ついにはエンドマークで映画の終焉さえも刻印してしまう映画だ。

その<宇宙に彷徨った映画>が、2002年の日本に、<フォーエヴァー・ゴダール>シリーズ公開の第1弾として帰ってくる。ゴダールが予感した世界が21世紀のいまより近い現実感で新鮮なことに驚かれるかもしれない。宇宙と地球を往還し、現代と地球の原初時代とを破天荒に縦横する叙事詩的な物語展開、映像と編集の破壊的なパワー、言葉と音楽と沈黙の底知れないエネルギー、いまかえて斬新なファッションと圧倒的な色彩美など、ゴダールのヌーヴェル・ヴァーク期の活力のすべてが結集して映画の魅力と堪能させてくれるに違いない。

<フォーエヴァー・ゴダール>シリーズは、2001年夏ロンドンで世界のゴダール研究者が結集して行なった<for ever godard>、そして2002年1月からオンタリオで行なわれている<for ever godard part 2>と期をあわせることになったが、現在のところ世界中で唯一「映画史」全8章までもが劇場公開された日本にこそふさわしいと言えるかもしれない。フランス映画社では、「ウィークエンド」から90年代の新作「JLG/自画像」「フォーエヴァー・モーツァルト」を軸に、<フォーエヴァー・ゴダール>2002年版を展開する。

その第1弾「ウィークエンド」の主人公はパリ16区に住むブルジョワ夫婦、ロランとコリンヌ。毎週週末には二人で妻コリンヌの実家がある田舎町ワンヴィルに出かける。コリンヌの父は死にかけていて、母と遺産をどう分けるかが二人の関心事だ。コリンヌはセラピストの愛人がいることをロランに隠し、ロランは会社に愛人がいることを彼女に隠していて、二人とも、遺産が入った後で相手をどう交通事故で死なせるか企んでいる。コリンヌは愛人に、夢とも現実ともつかぬ乱交の夜の記憶を語る…。

主演コンビは人気絶頂のマナー・メーカー・スターのミレイユ・ダルクとジャン・ヤヌス。異色スターのジャン＝ピエール・カルフォンが解放戦線の隊長役でロートレアモンの<マルドロールの歌>の“老いたる海よ”をドラマを叩きながら朗誦し、ヴァレリー・ラグランジュ(「青い女馬」)が隊長の女を演じ、若きレオーは、革命家サン＝ジュストと現代の孤独な青年(空手の名人という設定)を名演。「中国女」のジュリエット・ベルト、ロメール映画で知られるダニエル・ポメルール、脚本家でピアノの名手でもあったポール・ジェゴフ、ゴダールと新婚前後だったアンヌ・ヴィアゼムスキー、先鋭な批評家ミシェル・クルノー、プレッソンの映画で少女を犯す役どころを数度演じたギルベール(浮浪者役でコリンヌを犯す)、ヒッチcock=トリュフォーの「定本 映画術」で通訳をつとめたヘレン・スコット女史、ゴダール映画の常連ラズロ・サボ、怪優エルネスト・メンゼル、ビートニック青年のイヴ・ベネイトンほか、随所で大スターと新鮮な顔ぶれの混在と衝突で活力をあおるゴダール一流のキャスティングだ。

スタッフの中心は「勝手にしやがれ」いらいの名撮影監督ラウル・クタル。録音のルヴェール、編集のギュモ、スクリプトのシフマン、いずれもヌーヴェル・ヴァークを支えたつわものが結集している。チーフ助監督にクロード・ミレルがつき、イザベル・ポンスが出演と裏方で活躍。

音楽は「気狂いピエロ」のアントワーヌ・デュアメル(ユニバーサル・レコードから「気狂いピエロ」とカップリングしたサントラCDを発売中)。レオーが歌うのは、ギィ・ベアール(「突然、炎のごとく」)の当時のヒット・ソング。

完成当時は、渋滞シーンでの300Mにわたる大移動撮影が撮影時から騒がれ(それをせっかく実現しながらゴダールが2つに割ってしまっ製作者が憤慨した)、冒頭のコリンヌの夢でバタイユの「眼球譚」からの引用が観客を興奮にまきこみ、「つなぎ間違い」という映画編集常識をくつがえす話法をうちだしたり、なによりも内容の難解さで、フランス全土をセンセーショナルな話題ののつぱにした。

「ウィークエンド」の日本初公開は1969年。フィルム・アート社の輸入提供で日本アート・シアター・ギルドの配給、山田宏一氏の八面六臂の活躍で公開された。今回は30年ぶりの公開になる。



フランス映画社配給 共同提供 = シネフィル・イマジカ 協賛 = TRANS CONTINENTS

www.bowjapan.com

8月24日(土)~9月6日(金)京阪神独占連続ロードショー決定!

お好きな番組、どなたでも一緒にご覧いただける
3回券3,900円発売中(当日一般1,700円、学生1,400円(の他))
※期町ミュージアムスクエアでは、毎週水曜は、男性に限り1,000円均一
モーニングショー・レイトショーを除く最終回に限り一般は、1,400円均一

上映時間 連日12:40/2:45/4:50/6:55

引継ぎ
「フォーエヴァー・モーツァルト」 9月7日(土)~13日(金) 連日12:15/2:00/3:45/5:30/7:15
「JLG/自画像」(同時上映・短編「フレディ・ピュアッシュへの手紙」)
8月24日(土)~9月6日(金) 連日、朝11:15/夜8:50、9月7日(土)~13日(金) 夜8:50

ホワイトイ梅田、泉の広場M-10右上がる東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
TEL.06-6361-0088 www.oms.gr.jp